

PRESS RELEASE

ドクターカー購入へ第一目標達成間近 総額約3,600万円実現に向け第二目標を発表します@半田市

2025年12月26日(金)16:00～16:30 @知多半島総合医療センター

知多半島総合医療機構は、現在実施中のクラウドファンディングにおいて、第一目標として掲げた1,500万円の達成が間近となったことを受け、ドクターカー購入の実現に向けた第二目標を発表いたします。

本プロジェクトは、知多半島地域の救急医療体制を維持・強化するため、老朽化したドクターカーの更新を目的とした取り組みで、2025年11月18日(火)から2026年2月13日(金)まで、クラウドファンディングサービス「READYFOR」にて寄附を募っています。

(プロジェクトURL：<https://readyfor.jp/projects/CMC-doctorcar>)



ドクターカーの導入には車両本体に加え、医療機器の搭載が必要となり、全体で約3,600万円の費用を要します。第一目標はその全体費用の一部として設定したものであり、多くの支援により達成が目前となっています。今回の第二目標は、計画を次の段階へ進めるためのものです。募集期間については、変更ありません。

【更新を機に、より重症患者への対応を可能に】

跳ね上げ式シートの導入

跳ね上げ式になることで、これまで搭載できなかった大型医療機器の搭載が可能に。より重症患者の対応ができるようになります。スペースが広くなり医師が立ち上がって処置もできるため、患者の頭からつま先まで、より詳細な全身観察ができるようになります。

電動ストレッチャーの導入

頭痛や吐き気のある患者や生まれたばかりの新生児を搬送する際、わずかな傾きや揺れが患者の状態に影響を与えることもあります。電動ストレッチャーは水平を保ちながら滑らかに昇降できるため、より安全で確実な搬送が可能になります。

振動に耐えられる車両へ

DMAT（災害派遣医療チーム）の災害派遣にも使用するため、長距離の運転や悪路での振動にも耐えられる車両を選定します。2年前の能登半島地震の際にもドクターカーによる災害派遣を行い、被災地で医療支援を実施しました。平時・災害時を問わず機能する医療体制の重要性を、現場で実感しています。



【知多半島総合医療センター副院長/プロジェクト実行責任者】

太平 周作（おおひら しゅうさく）

第一目標の達成が目前となり、多くの皆さまのご支援に心から感謝しています。第二目標は、車両・医療機器の搭載を踏まえたドクターカーの購入に必要な総額となります。

2年前の能登半島地震では、ドクターカーで被災地に入り、「動ける医療」の重要性を痛感しました。その経験を、今後の地域医療と災害対応に確実につなげていきたいと考えています。